

様式1 令和4年度 山梨県立甲府工業高等学校 学校評価報告書(自己評価・学校関係者評価)

学校目標・経営方針	新時代を主体的・創造的に生き、知徳体をそなえ、地域の希望となり未来となり光となって、山梨や日本を支え、世界に羽ばたくエンジニアを育成する。
-----------	---

山梨県立甲府工業高等学校校長 菊 島 圭 一

本年度の重点目標	1 社会が必要とする人間力を育成する。	達成度	A ほぼ達成できた。(8割以上)
	2 基礎的基本的な学力の定着を図る。		B 概ね達成できた。(6割以上)
	3 健全な心身を育成する。		C 不十分である。(4割以上)
	4 新しい時代に対応した教育活動を推進する。		D 達成できなかった。(4割未満)

評価	4 良くできている。
	3 できている。
	2 あまりできていない。
	1 できていない。

自 己 評 価			
本年度の重点目標			年度末評価(令和5年1月19日現在)
番号	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	社会が必要とする人間力を育成する。	基本的生活習慣の定着を図り、規範意識を育む。	毎日の始業前遅刻指導と遅刻者指導の実施
		あらゆる場を道徳教育の機会と捉えて人間教育を行う。	学校生活での指導の徹底
		社会人としての基礎力を育成し、自らの考えで行動できる力を育む。	情報モラル形成と、交通事故・違反減少への指導
		地域社会や企業との連携を図り、それらの体験活動を通して社会の一員としての自覚と責任を持たせ、社会に貢献できる人を育てる。	企業現場実習及びボランティア活動の実施
2	基礎的基本的な学力の定着を図る。	主体的・対話的で深い学びの授業(アクティブラーニング)を実践する。	相互授業参観及び研究授業の実施
		学科の特色を生かした専門教育を展開し、興味・関心を持たせ学習意欲を向上させる。	授業研究の推進と、観点別評価の実施
		目指す技術者をイメージさせ、資格取得・大会等への挑戦を通じて進路実現を図る。	資格取得指導の徹底と大会参加の推進
		教育活動全体を通して話す力、聞く力、書く力、読む力を育成する。	面接及び小論文指導の充実
3	健全な心身を育成する。	部活動・委員会活動をより活発に展開し、豊かな人間性を育む。	年間指導目標・年間指導計画の作成
		体育・スポーツを積極的に推進し、体力・精神力の向上を図る。	生徒へのきめ細やかな指導の確立
		健康、安全や食に関する教育を行い、自他の生命を尊重する心を育む。	各教科での取り組みと各種講演会の実施
		部活動運営の適正化を図り、部活動指導の負担軽減による効率化を追求する。	適切な休業日の設定
4	新しい時代に対応した教育活動を推進する。	系統的・体系的なキャリア教育を推進し、勤労観や職業観を育成する。	キャリアパスポートの利用
		専攻科創造工学科において、より高度な知識や技術・技能、設計力の育成を推進する。	専攻科のさらなる発展及び本科との交流
		学校教育全体において、今年度より導入されるBYOD端末を活用できる力を育む。	授業、アンケート、外部への情報発信等でのBYOD端末の活用

学校関係者評価		
実施日(令和5年1月25日)		
評価	意見・要望等	
4	出席率の良さについては、生徒各自の自覚はもちろんですが、先生方のご指導の成果であると思います。また、インターンシップも実施しており社会における組織人のあり方などを学ぶ大きな場所であるため、学生のうちに体験することは非常に有意義であると思います。 長びくコロナ禍で行動制限を受けるなかでの取り組みは大変であったと推察する。それにもかかわらず、かなりの成果を上げている。 遅刻・交通違反・事故等については、完全0はなかなか困難ではあるが、0を目指しての愚直な取り組みを継続していくことが必要でしょう。 出席率は高く、基本的な生活習慣が身に付いている結果が見て取れました。交通違反・事故0の取り組みはよく行われていて、事故件数や違反件数にも結果が表れていると思います。一方、情報モラルについては具体的な報告がないために評価が難しくかったです。社会人としての基礎力としては、情報モラルに限らず、広く技術者としての倫理教育も今後は必要になってくるのではないのでしょうか。	
3	社会が必要とする人間力を育成するため、菊島校長先生自らが先頭に立ち取り組んだことに意義を感じます。特に組織の在り方としては、先生にも生徒にも素晴らしい環境だと思います。各種コンテストも優秀な成績を収めましたが、これまでもメディアへの情報提供はされていますが、さらなる充実を期待します。 情報機器の研修は、個人差もあり、多忙な教員にICT活用を身につけてもらうことは、非常に難しいが、教員の意欲、向上を図り、頑張ってください。 効果的なICT活用の研究が必要かと思えます。主体的・対話的で深い学びは、ICT機器を導入することで達成されるものではありません。むしろ、どのような授業設計を行うかが非常に重要です。ICT活用を前提にするのではなく、授業設計をする中で、ICT活用が必要な場合に導入されるのが良いかと思えます。各種コンテストなどで優秀な成績をおさめていることは評価に値すると思います。優秀な成績をおさめた生徒が他の生徒をけん引していくようになれば理想的だと思います。	
3	生徒の頑張りを見せた総合体育大会4連覇、さらに文化部における全国大会出場等々、担当された先生方も大変なご苦労だったと思います。来年度は、コロナ対応も第5類へ移行するようですので、さらなる飛躍を願います。 部活動における教員の負担軽減は時節柄少しずつでも達成していかなければならない。その中で成果を上げるのは、簡単なことではないが是非頑張ってください。総体も優勝できるので、各種コンテストも同様の情熱を持って「工業」の力を示してほしい。 カウンセラーも大切ですが、心が弱い人が多くなってきているので、自分のことですが、他の人のことも考えられるようになってくれたらと思います。	
3	専攻科との交流、教科書以外の勉強も必要。教師生徒共、体育館での研究発表は大変よかったです。 企業現場実習や企業見学は、非常に有意義だと思います。引き続き推進してってください。また、本校と専攻科の交流ですが、コミュニケーションを図れたことに併せて、専攻科の生徒のプレゼンテーション力を培う事が出来た点が大変意義深いと感じました。 キャリア教育として、生徒のキャリアパスを自ら考えさせるような時間があれば良いかと思えます。その一部もしくはその発端となるように、企業見学が計画されると良いかと思えます。 工業は伝統を大切に、良い部分もたくさんあり素晴らしいのですが、新しい時代にはいろいろな部分を改革が必要ではと感じています。	